

様式第 1 号

兵庫県福祉サービス第三者評価の結果

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西

②施設・事業所情報

名称：児童支援センターえがお芦田	種別：障害児通所支援事業		
代表者氏名：吉川ゆか	定員（利用人数）：	10	名
所在地：兵庫県丹波市青垣町田井縄371			
TEL 079-550-0018	ホームページ：https://sskt-egao.com/		
【施設・事業所の概要】			
開設年月日：2018年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名）：一般社団法人SSKT			
職員数	常勤職員：	3	名
	非常勤職員：	1	名
専門職員	(発達支援コーチ)	3	名
施設・設備の概要	(居室数)	(設備等)	
	1 部屋（指導訓練室・事務所）	ボルダリング	

③理念・基本方針

できた！から始まる1歩を応援する、統合遊びを中心とした運動療法で発達の土台をサポート

④施設・事業所の特徴的な取組

全員が発達支援コーチの講座を受講し、初級発達支援コーチの認定資格を受けている。法人の4日間の研修を受けて一社）SSKT認定児童発達支援保育士または児童発達支援支援員として活動（HPに記載）、毎月2回19時～21時に代表が推奨する「ライプチヒ大学公認のスポーツ科学」の勉強会や実技の体験を行うフットサル教室で自ら運動療法を学ぶ

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年7月1日（契約日）～ 令和2年9月18日（評価結果確定日）
受審回数 （前回の受審時期）	0回（平成 年度）

⑥総評

<p>◇特に評価の高い点</p> <p>県内初の運動療法をベースとした障がい児等への支援を推進している。障がいの度合いに関わらず本人の持てる能力を最大限に引き出し、自発的、主体的な体の動きを通して想いを表現できるよう支援している。これまでの経験や知識に裏打ちされた高い専門性を有した代表者の自信と意欲が、障がい児だけでなく職員へも伝わり、えがおがあふれ笑い声が絶えない活気ある居場所となっている。これまでにない子どもたちのえがおと楽しそうな声に、保護者や地域住民の共感と信頼が徐々に広がってきており、障がいという概念に捉われない新しい発想と転換としての運動療法という新たな分野への期待は大きく、楽しみである。</p>
<p>◇改善を求められる点</p> <p>新たな分野だけに、理解や周知はまだこれからではあるが、法人としての運営や経営面での体制整備、組織化等の充実、必要な事務文書やマニュアル等の整備が求められる。特にこの度の事故は、運動療法という危険が伴い、かつ新しい取り組みであるがゆえに、日常的なヒヤリ・ハットへの職員の意識の高さ、事故後の迅速、かつ丁寧な対応が必要で、確立されてこそ保護者等との信頼関係にもつながる。そのためにも、代表者のさらなるリーダーシップと同時に、職員自らが事業や活動内容に企画から参画するなど、現場重視の視点を今以上に高めていただきたい。</p> <p>代表者は職場環境への配慮、職員の育成にも力をいれていることから、今後の職員の向上心、積極的な研鑽を望みたい。</p>

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

<p>普段言いにくいことをお伝えいただいたり、また自分たちのしていることを客観的に見ることができたため、大変参考になりました。また自分たちがしていることの再確認再評価できたことが最大の成果だと思っています。今後もしっかり自分たちを見つめていきたいと思えます。ありがとうございました。</p>

⑧各評価項目に係る第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

(別紙)

第三者評価結果

※すべての評価細目について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

評価対象 I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1)	理念、基本方針が確立・周知されている。	
1	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・(b)・c
代表の強い想いを理念として明示しているが、方針としての、より具体化した分かりやすいものがあれば、利用者や家族、地域への周知が今以上に広がるのではないだろうか。		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1)	経営環境の変化等に適切に対応している。	
2	I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a・(b)・c
今後の事業展開を踏まえ、定期的な分析と共に、職員間での密な情報交換、共有が望まれる。		
3	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a・(b)・c
今後の法人として必要な経営、組織、人材、財務等の体制整備の充実を望みたい。		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1)	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・(b)・c
中長期を5年から10年までと想定した柔軟な計画の策定を検討されてはどうか。		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・(b)・c
新規事業の進捗状況や内容等、段階に応じた目標設定が必要ではないか。		
I-3-(2)	事業計画が適切に策定されている。	
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a・b・(c)
代表者の考える事業展開を構想の段階から、職員に納得してもらえよう、十分時間をかけた説明及び意見交換が必要と思われる。		

7	I-3-(2)-② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a・b・c
上記のことが実施できた段階で、職員自らによって利用者、家族等への周知、理解を促していただきたい。		

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・b・c
この度の受審を好機ととらえ、組織化していただきたい。		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・b・c
評価結果を踏まえ、ぜひ事業計画への反映、改善計画の作成へとつなげていただきたい。		

評価対象II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	II-1-(1)-① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a・b・c
役割や責任の明確化及び文書化が必要と思われる。		
11	II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・b・c
今後の事業展開を見据え、間接的な幅広い分野についての法令等の把握が望まれる。		
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	II-1-(2)-① 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a・b・c
質の向上に向け、定期的な職員からの提案や意見の収集、アンケート等の実施、例えばサービス向上委員会等を通じた具体的な取り組み等を検討していただきたい。		
13	II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・b・c
経営だけでなく、職場環境、さらには理念の実現に向けた現場からの意見や提案を吸い上げる体制づくり等、現場とともに意識形成するための取り組みが必要と思われる。		

II-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a・(b)・c
今後の事業展開、拡大を踏まえ、中長期的な人材育成が望まれる。		
15	II-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a・(b)・c
発達支援コーチの研修をベースに適材適所の人材配置に努めているが、職員の将来像までの総合的な仕組みづくりには至っていない。		
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a・(b)・c
代表者は、働きやすい職場環境づくりへの意識を持ち、改善に努めている。福利厚生については、今後の課題としている。		
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	II-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a・(b)・c
運動療法という新しい分野でもあり、個々の職員のやる気及びモチベーション維持のための、メンタル面での配慮や声掛けがより必要と思われる。		
18	II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a・(b)・c
発達支援コーチ研修をベースとしているが、職員の将来像を総合的にみて、誰もがわかる体系だったものが必要ではないか。		
19	II-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・(b)・c
職員には、発達支援コーチ研修(初級)を必須としており、代表者は個々の意向や経験を重視し、必要な助言を行っている。将来に向け、体系だった研修計画も検討されてはいかかか。		
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	II-2-(4)-① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a・b・(c)
今のところ未実施であるが、今後は受け入れ体制の整備についても検討いただきたい。		

II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・b・c
今のところ事業内容や職員紹介、イベントの案内や報告のみにとどまっている。今後は、財務関係、苦情や相談体制及び内容等の公表についても検討いただきたい。		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・b・c
経営、運営全般に関するルールの明確化、と同時に職員への周知が望まれる。		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	a・b・c
広報誌を市の公共施設の窓口に設置し配布している。さらなる地域住民への広報にも努めていただきたい。		
24	II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	a・b・c
地域住民やボランティアグループの活動を積極的に受け入れるための工夫について検討いただきたい。		
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	II-4-(2)-① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a・b・c
今後も、多様な社会資源のネットワーク化に取り組んでいただきたい。		
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	II-4-(3)-① 福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	a・b・c
自治会や地元小学校教師、一般住民が自由に参加出来る運動療法の場、講演会等の交流の場を提供している。		
27	II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a・b・c
地域に事業内容や運動療法等をパンフレットで紹介し、一部の自治会等からの講演依頼にも積極的に応じている。資格を活かした知識や技術を更に広められるよう働きかけていただきたい。		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。 例えば基本方針として大切にしている支援内容や考え、言葉等をより具体化することで、利用者への尊重や人権への配慮についての意識統一が、より図られるのではないだろうか。	a・(b)・c
29	Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。 マニュアル以外の必要な書類に、プライバシー保護や権利擁護についての明文化した記述が望まれる。個人に配慮した個室の確保も検討していただきたい。	a・b・(c)
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。 ホームページや公共施設等の案内を通じて、誰もが気軽に体験できるような工夫をされてはどうか。	(a)・b・c
31	Ⅲ-1-(2)-② 福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。 家族や利用者に説明するパンフレットはあるが、年少の利用者にもわかりやすいイラスト等を利用した案内パンフレットを作成されてはどうか。利用変更時に説明できる書類の作成も望まれる。	a・(b)・c
32	Ⅲ-1-(2)-③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。 他事業所への変更時に関する手順や手続きに関する書類等の作成をされてはどうか。	a・(b)・c
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。 家族同士の交流の場を設けてはどうか。送迎時に、気軽に話し合える場の工夫もお願いしたい。	a・(b)・c
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。 意見箱設置の予定であるが、苦情を出しやすい工夫が望まれる。当事者の了解の下プライバシーに配慮した形で公表されたい。家族への丁寧なフィードバックも必要である。苦情に関する分かりやすいフローチャートの作成も検討いただきたい。	a・b・(c)

35	Ⅲ-1-(4)-② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a・b・ ③
相談スペースについて、利用者、家族に分かりやすい表示の工夫なども考えていただきたい。		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・ ② ・c
相談や意見を聴き、説明できるフローチャートの作成とともに、普段から反しやすい雰囲気づくり、声掛けを望みたい。事故等の発生後の家族への説明については、状況に応じた早めの対応が望まれる。		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a・ ② ・c
例えばリスクマネジメント委員会を設置するなど、職員の意見が反映される仕組みを検討して頂きたい。大きな事故を防止するためにも、多くのヒヤリハットが出されるよう職員の意識向上に向けた研修を重ね、利用者の行動を制限することなく安全を確保できるような取組が望まれる。		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a・ ② ・c
引き続き対策に努め、対応マニュアル等の定期的な見直しを望む。		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的にやっている。	a・ ② ・c
急病者発生時マニュアルはあるが、担当者の明確化をされたい。利用者参加の訓練の実施や地域に人にも広く知ってもらうための積極的な広報活動を検討いただきたい。		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a・b・c
利用者の権利擁護やプライバシー保護に関する書類の整備をされたい。		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・b・c
事業所に適した標準的な実施方法の作成を望みたい。		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別支援計画を適切に策定している。	a・b・c
計画作成の責任者の明確化、計画策定に至る手順書の作成を検討いただきたい。担当者会議への利用者家族の参加も、可能な限り実施していただきたい。		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に個別支援計画の評価・見直しを行っている。	a・b・c
個別支援計画の見直しの時期及び利用者家族の意向把握と同意を得るための手順等の仕組みの整備をあらためて検討いただきたい。		
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a・b・c
今後は職員全員が個別支援計画に沿った適切な記録が出来るように、レベルアップ研修をされてはどうか。		
45	Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a・b・c
契約時における個人情報使用同意書が必要である。文書作成時は記録者名や年月日の記入が必要ではないか。		

評価対象A 内容評価基準

A-1 利用者の尊重と権利擁護

		第三者評価結果
A-1-(1) 自己決定の尊重		
A①	A-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	Ⓐ・b・c
A-1-(2) 権利侵害の防止等		
A②	A-1-(2)-① 利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	a・Ⓑ・c

特記事項

職員はあくまでも指導や指示するのではなく、利用者の自己決定を促し、自己表現を大事にしている。そのためには、十分なマンツーマンでの時間を持つなど、コミュニケーションを心がけている。

ミーティングや職員会議で利用者個々の支援状況等を確認するとともに、チェックシートを活用して、職員間で意識統一を図っている。

A-2 生活支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 支援の基本		
A③	A-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a・(b)・c
A④	A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	a・(b)・c
A⑤	A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	(a)・b・c
A⑥	A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	a・(b)・c
A⑦	A-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	a・(b)・c
A-2-(2) 日常的な生活支援		
A⑧	A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	(a)・b・c
A-2-(3) 生活環境		
A⑨	A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	a・(b)・c
A-2-(4) 機能訓練・生活訓練		
A⑩	A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	(a)・b・c
A-2-(5) 健康管理・医療的な支援		
A⑪	A-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	a・(b)・c
A⑫	A-2-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	a・b・(c)
A-2-(6) 社会参加、学習支援		
A⑬	A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	a・(b)・c
A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援		
A⑭	A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a・(b)・c
A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援		
A⑮	A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a・(b)・c

特記事項

運動療法をベースに、利用者の自発的、主体的な能力を引き出すことで意欲ややる気の向上にもつながっている。地域との関わりや多様な情報収集がより求められる。

職員は、研修を通して基本的概念を身に付け、それに基づいた個別支援をベースとしている。個々の特性を尊重し、自主性を促すマンツーマンでの取り組みを行っている。この度の事故を受け、より丁寧な利用者の行動把握が望まれる。

定期的な個別指導や健康管理、対応方法等の研修をされてはどうか。

緊急時対応の研修及び実践状況の記録の整備が必要と思われる。可能であれば、協力医療機関の医療者による研修を検討されてはどうか。

A-3 発達支援

		第三者評価結果
A-3-(1) 発達支援		
A⑩	A-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	①・b・c

特記事項

<p>個別支援はプログラムから利用者自らが選んで実施し、集団訓練は利用者の希望に応じて実施している。</p>
--

A-4 就労支援

		第三者評価結果
A-4-(1) 就労支援		
A⑰	A-4-(1)-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	a・b・c
A⑱	A-4-(1)-② 利用者に応じて適切な仕事内容等となるように取組と配慮を行っている。	a・b・c
A⑲	A-4-(1)-③ 職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	a・b・c

特記事項

該当なし
